

## 私

は一年ほど前から長野県  
の浅間山に臨んだ場所に  
住み始めた。浅間山は活火山だ  
とは知っていたが、毎日モクモ  
クと噴煙をあげている姿には、  
当初、危険を感じていたように  
思う。現在の私には危機感など  
まったくなく、美しい噴煙に見  
とれる毎日を過ごしている。

昨年末から、目の前にある浅  
間山の噴火の事実がニュースで  
伝えられることが幾度かあっ  
た。そのたびに「あ、噴火して  
たんだあ」といった気の抜ける  
感じで、改めて見る浅間山が、  
だからといって暴れ出しそうに  
見えたりはしない。浅間山を毎  
日見ているからといって、「そ

ろ危ないかも」などとわかる  
わけもなく、実態を知るのはい  
つもテレビのニュースやインタ  
ーネット、ひどいときは海外の  
友人からの心配メールなどで知  
ることもある。

これには何だか違和感があ  
る。目の前で食事をしている友  
人とわざわざ携帯メールで会話  
をするような感じだったり、大  
親友だと思っていた友人の結婚  
報告を他の友人から教えられる  
ような感じだったり。

自然の中に身を置きながら、  
まだまだ大自然には受け入れら  
れていない感覚。新参者だから  
当たり前かもしれない。が、ど  
のようにしたら受け入れられる  
ようになるのか、知りたくてた  
まらない。

落ち着いて考えてみると、大  
自然は受け入れてくれている  
わけではない。

毎日、浅間山の向こうに沈ん  
で行く夕日は感動的に美しい  
し、地元の農家の方からいた

く野菜の味は「美味しい」とい  
う言葉を押し込めることができ  
ないくらい素晴らしい。毎日  
徐々に芽吹いていく花々は、私  
に向かつてゆっくり両手を広げ  
てくれているようだ。日常的に  
こんな贅沢をさせてもらってい  
るのに「受け入れてくれない  
い」なんて、いじけた言い分だ。

大自然を前にすると、自分が  
ちっぽけに感じる。今まで自然  
と共存してこなかった私にとっ  
ては仕方がないとはいえ、いじ  
けた自分を肯定してやるという  
のも腹立たしい。これからのこ  
こでの生活が、ちっちゃい自分  
を変えてくれそうな期待が高ま  
る。

いつか浅間山の噴煙にただ恐  
怖を感じビクビクするのでもな  
く、美しさに見とれて大自然の  
脅威を忘れてしまうのでもな  
く、ご機嫌を伺えるような関係  
になればステキだなあと、今日  
も立ち上る噴煙を眺めながら夢  
想している。☺

## 浅間山といじけた私

@Nagano  
oumano

束芋 [ユメ ニッキ・ニッポン] より (スチル)  
2000年

©Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi